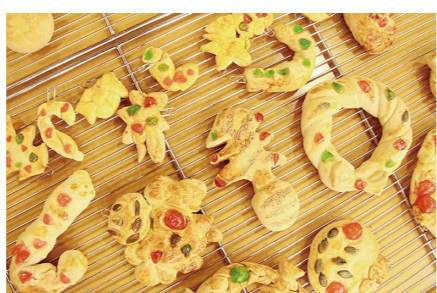


参加ファミリー募集

【対象】東日本大震災後に福島県から山形県内に転入されたご家族／福島県内にお住まいのご家族
【定員】1日200名一お申込み順
【教材費】大人1名につき1日5000円(レクリエーション保険料も含みます)／高校生以下無料
【持ち物】お弁当(食べ物をつくるプログラムがあるのでお弁当の量は軽めにお願います)、マイカップ、マイ箸、家族全員が座れるサイズのレジャーシート、水筒、お手拭きタオル、雨具。
【ドレスコード】綿やポーター柄の服や帽子でお越しください。
※お子さまのいるご家族向けのイベントのため、大人の方だけの参加はできませんので、予めご了承ください。※「ふくしましま」会場の村山市農村文化保存伝承館は蕎麦打ち体験施設です。蕎麦アレルギーをお持ちの方は、誠に申し訳ございませんが、参加をお控えいただきますようお願いいたします。※雨天の場合でも実施いたします。



JR福島駅西口から無料往復バスを運行

【運行日】2013年11月2日【土】、11月3日【日】(1日1往復便)
【定員】1日45名(お申込み順)
【往路】800福島駅西口発→(東北道)菅生PAでトイレ休憩→1000村山市農村文化保存伝承館着
【復路】1700村山市農村文化保存伝承館発→(東北道)菅生PAでトイレ休憩→1900福島駅西口着
※往復バス利用をご希望の方はお申込み時に予約をお願いいたします。

お申込み方法

お申込みはメールでお願いいたします。メールの件名を「ふくしましま申込」とし、本文に下記の必要事項をご記入のうえ、2013年10月15日「火」までにお申込みください。定員になり次第、締め切らせていただきます。ご了承ください。①【参加日】両日参加・11月2日のみ参加・11月3日のみ参加(いずれかを明記してください)②【参加人数】続柄・年齢(記入例↓4名、本人30代、夫30代、長男5歳、長女2歳)③代表者氏名(フリガナ含)④【現在お住まいのご住所】⑤【ご連絡先】メールアドレス・携帯電話⑥【交通手段】自家用車・無料往復バス利用(いずれかを明記してください)⑦【無料往復バス乗車日】11月2日往復/11月3日往復(無料往復バスご利用希望の方のみご記入ください。)
※乗車定員に限りがありますので、定員になり次第、締め切らせていただきます。
お申込み・お問合せ先
東北芸術工科大学東北復興支援機構 E-mail:y-gakusha@aga.tuad.ac.jp
☎023-627-2218(平日9:00~17:00)

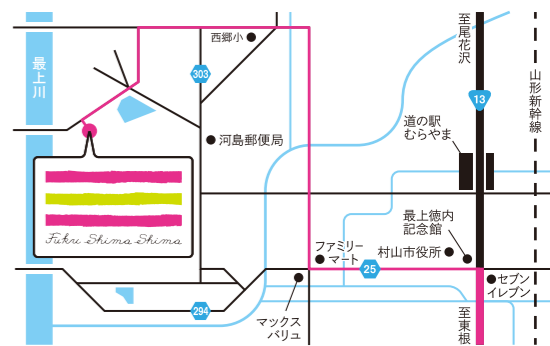


Table with 2 columns for dates (Nov 2 and Nov 3) and 12 rows of activities with times and descriptions.

※天候などの諸事情により、タイムテーブルの内容は変更になる場合がございますので予めご了承ください。

近隣の宿泊施設情報

全市町村すべてに温泉が湧きだす温泉処の山形県。会場となる村山市周辺の温泉を御案内いたします。
「宿泊をお考えの方は」ご参考にどうぞ。
クアハウス基点
〒995-0209 山形県村山市基点1034-7
☎0237-56-3351 http://www.kur-goten.jp/
銀山温泉(銀山温泉組合)
〒999-4333 山形県尾花沢市銀山新地内銀山温泉
☎0237-28-3370 http://www.ginzanonsen.jp/
さくらんぼ東根温泉(東根温泉協同組合)
〒999-3702 山形県東根市温泉町一丁目8-23
☎0237-42-7100 http://www.higashineonsen.com/



村山市農村文化保存伝承館
村山市大字河島元杉島1315-1
☎0237-53-3277(平日9:00~17:00/水曜休館日)
※交通・施設に関するお問い合わせのみ
※会場には無料駐車場約120台がございます

「主催」東北芸術工科大学 ※京都造形芸術大学との復興支援連携事業(こども芸術の家)プログラム
「協力」荒井良二、キャンドルリンクネットワーク、Goya、サンデーブリス、手づくりパン NOUKA、飛びだすビルド!、平澤まりこ、福興会議、村山市農村文化保存伝承館、「FEKUS」、山形ガールズ農場、渡辺智史
「助成」株式会社三越伊勢丹、公益財団法人日本文化芸術財団、公益財団法人東日本大震災復興支援財団
「企画プロデュース」宮本武典
「宣伝美術」小坂橋基希(アカオニデザイン)
お申込み・お問合せ先
東北芸術工科大学東北復興支援機構
E-mail:y-gakusha@aga.tuad.ac.jp
☎023-627-2218(平日9:00~17:00)

Logos for TRSO, MITSUKOSHI, ISETAN, and FUKUKOU KAIGI.